

# 勢和小学校だより

発行日：令和5年6月26日 第6号

## 子どもたち目線の安全点検

本校では定期的に職員による点検と、業者による点検を行っていますが、より安心・安全な学校にするため先日、子どもたちから日頃感じている危険箇所を聞き取りました。

- ・ 鉄棒が回ってしまう。
- ・ 鉄棒が少しゆがんでいる。
- ・ 一輪車練習用支持台がグラグラする。

など、子どもたち目線による危険箇所が分かりました。

早急に対応できる所は修繕し、対応できない所は使用禁止にし、予算を要望していきます。

安全な環境で生活できるよう、子ども目線を大切にし、また今回のような危険箇所点検を通して子どもたちの安全意識を定着させていきます。

## 親子ふれあいウォーキング

6月17日(土)にPTA学年委員会が主催する親子ふれあいウォーキングが開催されました。

夏を思わせるほど、当日は暑い日でしたが、みなさん元気に参加されていました。

参加した子どもたちからは「家族といっばいしゃべることができた。」

「歩くだけでなく、ミッションがあり楽しかった。」

「もっとたくさんの人に参加してほしいかった。」

「家族以外の人とも話ができてふれあえた。」

等の感想が聞かれました。



## SNSやテレビの影響大

### 言葉づかいは使い分けが大切

最近、テレビで 見る事が多くなったさまざまな地域やお店の食べ物を紹介するグルメ番組。タレント等が食べた感想を伝えています。

その感想の中で、しっかり根付いてしまった言葉が「やばい」です。

もともとは「危ない」を表す「隠語」で新聞では使用を避けるべき言葉として扱われていますが、現在では、「おいしい」「楽しい」など肯定的にも、また「まずい」「よくない」など否定的な意味でも使われています。

テレビやSNS等、発信する側は受け手の興味を引

くために印象の強い言葉や奇をてらった表現を使おうとしますから、私たちや子どもたちが、その言葉等に関心を持ち、語彙として獲得し使うことは当然の流れでしょう。

「どや顔」も日常生活でよく聞く言葉です。芸人ダウンタウンの松本人志さんが、得意げにしていたフットボールアワー後藤輝基さんに向けて使った言葉が最初とされています。もともとは、「得意顔」「したり顔」です。

「爪痕」も新しい意味で使われ始めました。「台風の爪痕」「戦争の爪痕」のように悲惨な状況などを表す言葉でしたが、「この番組で爪痕を残す。」と芸人さんが、自分自身を印象づけるという意味で使い始めています。

言葉や表現は時代を経て変わっていくものです。しかし、本来の意味や正しい言葉使いを知らないまま、テレビ等で使われている言葉や表現を使ってしまうと、コミュニケーションが成立しなかったり、受け手が発信者の意図を誤解したりすることにつながります。

仲間とワイワイする時、厳かな式典の挨拶、それぞれの場面や雰囲気にもふさわしい言葉・表現を使い、使い分けできることは、人生を豊かにし良好な人間関係を築くことにつながります。

今後も学校では授業や作文指導等、さまざまな機会に正しい言葉使いについて指導し、子どもたちの語彙を豊かにしていきます。

## 本校に体験入校中

現在、フィリピンのインターナショナルスクールに在籍している坂口廉音(さかぐち れね)さん(1年生)が6月15日から7月20日まで、本校で体験入校しています。

昨年の10月にフィリピンに移られるまでは勢和保育園で今の1年生の人たちと一緒に過ごしていたこともあり、初日から子どもたちの輪にとけ込んでいました。

本校での学校生活について尋ねると

「クラスの人々と仲良くなってきて楽しい。国語の教科書を読むことが好きで、シーソーで遊ぶことも好き。」と、話していました。

またフィリピンの学校との違いを尋ねると、

「フィリピンの学校(学童)にはおやつを持って行けるけど、日本は持って行けないこと。」

と話していました。

